

- **世界最先端の参加型自動放送システム：パブリック・オピニオン・チャンネル(POC)を開発、実証実験へ**

- **平成14年3月20日**
-

独立行政法人通信総合研究所・西田結集型特別グループと東京大学大学院情報理工学系研究科・西田・黒橋研究室は共同で、ユーザの発信した記事を自動編集して、誰でも親しめるテレビ放送型の様式に変換して配信する参加型自動放送システム(パブリック・オピニオン・チャンネル(POC))を開発しました。平成14年3月25日から実証実験を行います。POCは、地域コミュニティやNPOなどで「コミュニティの知」をメンバー自らの手で構築・発展させるために使用できる、世界でも比類のないユニークなシステムです。

パブリック・オピニオン・チャンネル(POC、「ポック」)は、ユーザが発信したコメントやメッセージを自動/手動で編集して放送する参加型放送システムです。ユーザは、ユーザからのメッセージを書き言葉・話し言葉変換によってCGキャラクターの対談形式に変換して提示するPOC TVと、PC上で手軽に番組編集ができるPOC コミュニケーター(POC Communicator)とを使って、POCによる放送サービスを受けられます。ユーザから投稿されたメッセージは一旦POCサーバに集積されてからユーザに配信されます。POCサーバには、番組自動編集機能、統計処理機能、ユーザ管理機能などがあり、少数の人間で手軽に放送サービスを運用できます。さらに、ネットワークコミュニケーション評価分析用ツールにより、社会心理学・認知心理学の観点から、メディアがもたらす個人・社会への影響を評価するためのデータ獲得と分析ができ、ネットワークコミュニケーションの研究に使用可能です。

POCは、地域コミュニティのコミュニケーション基盤や教育用メディアとして、さらには、企業のカスタマサポートのメディア、カスタムコミュニケーションやマーケットリサーチの新しい手段として幅広い活用が期待できます。平成13年1月に試作機を作成し、平成13年1月から1年間かけて、機能拡張とコンテンツ開発を行うとともに、内部で評価実験と実験コミュニティによる心理学実験を行ってきました。平成14年3月25日から開始されるKDDI株式会社のFTTHトライアルに参加して、東京都文京区と新宿区の約500世帯の家庭に対する実証実験を行って、データを収集し、実用化の基礎を築きます。

【お問い合わせ先】

通信総合研究所

けいはんな情報通信融合研究センター

西田豊明研究グループリーダー

電話：0774-95-2440

東京大学大学院情報理工学系研究科

西田豊明教授

電話：03-5841-6660

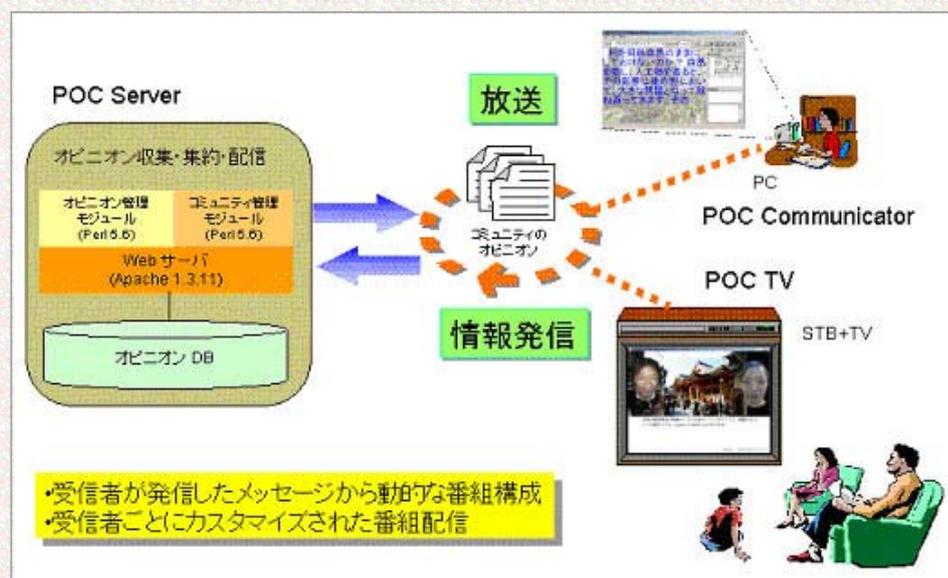
<パブリック・オピニオン・チャンネル(POC)の概要>

● パブリック・オピニオン・チャンネル(POC、「ポック」)とは？

ユーザが発信したコメントやメッセージを自動/手動で編集して放送する参加型放送システムです。

● POCの仕組みは？

- ユーザからの発信は、POCカードと呼ばれる、100文字程度の文章と静止画イメージ1枚で記録します。
- POCシステムは、POCサーバと、各ユーザのPOC端末から構成されます。POCサーバとPOC端末はネットワークを介して接続されます。
- POCサーバは、POCカードを集積し、オンデマンドで配信します。番組自動編集機能や統計機能があります。
- POC端末(POC TV、POC Communicator)は、ユーザの投稿をPOCサーバに送ったり、POCサーバからのデータをユーザに提示したりします。
 - POC TVは、書き言葉話し言葉変換によって、誰にでも親しめるテレビ放送の様式で番組を提供します。
 - POC Communicatorには、番組閲覧のほか、POCカードのビジュアルな編集機能があります。



● POCの特色は？

- POC TVでは、書き言葉・話し言葉変換機能により、ユーザから投稿されたPOCカード(書き言葉)を、2人のCGキャスターの対話形式に自動変換し、親しみやすいテレビ放送様式(話し言葉)で視聴者に提示します。
- 番組自動編集機能により、ユーザが指定したり、番組ランキングから抽出したりしたキーワードに関わるPOCカードを自動的に抽出し、視聴しやすいように並べ替えてユーザに提供できます。
- POC Communicatorにより、ユーザは過去に放送された番組データに、自分のパソコン上のデータを組み合わせて発展させた番組を簡単に作成できます。
- POC TVとPOC Communicatorでは、ユーザは提供されるチャンネルから好みのものを選択する受動的な視聴と、自分の興味をもつキーワードに関する番組を検索する能動的な視聴の両方ができます。また、受信履歴を用いて、個人に特化した視聴ができます。
- 運用面では、POCサーバには会員制のコミュニティのユーザ管理機能と、POC Communicatorによる編集者支援機能があり、少数の人間で手軽に運用できます。
- ネットワークコミュニケーション評価分析用ツールにより、社会心理学・認知心理学の観点から、メディアがもたらす個人・社会への影響を評価するためのデータ獲得と分析が可能です。

● POCの応用は？

- 地域コミュニティのメディアとして。
地域のニュース、地域にまつわる話、地域での共同作業のよびかけ、商店街の広告として、大きな効果が期待されます。
- 教育用メディアとして。
講義内容ばかりでなく、学習者の日常の興味や疑問やレポートまで放送すれば、クラスで、教材について実感のある深い知識が育っていくことが期待されます。
- 企業のカスタマサポートのメディアとして。
企業から顧客に製品の使い方や活用のヒントを伝え、顧客から企業へは製品に対する疑問や要望を手軽に伝えることができます。カスタマコミュニケーションやマーケットリサーチの新しい手段として活用が期待できます。
- リスクコミュニケーションのメディアとして。
安全に関する考え方、基礎知識、疑問、日常の対策、緊急時の心得などを社会で共有して、育てていくことができます。

● POCの実証実験の計画は？

- 平成13年1月から1年間、内部での評価実験と実験コミュニティによる心理学実験を行ってきました。
- 平成14年3月25日から開始されるKDDI株式会社のFTTHトライアルに参加し、東京都文京区と新宿区の500世帯の家庭に対する実証実験を行って、データを収集し、実用化の基礎を築きます。
- 初期コンテンツとしてPOCカード約3000枚を作成しました。約500枚は文京区、約500枚は新宿区、約2000枚は関西に関わるものです。